【Hondaドライビングシミュレーター DB型ModelA 顧客事例シリーズ】

社会福祉法人 聖隷福祉事業団 浜松市リハビリテーション病院

～「ModelA」の導入で多角的な運転評価の精度向上を実現～
年間250名が利用！浜松市に欠かせない地域医療の“ハブ”として運転支援を牽引

法人名	社会福祉法人 聖隷福祉事業団 浜松市リハビリテーション病院
設立	1999年12月1日
所在地	静岡県浜松市中央区和合北1丁目6-1
標榜診療科	・リハビリテーション科、内科、整形外科、脳神経外科、歯科 ・病床数：225床 （一般180床、療養45床）
従業員数	483名

■社会福祉法人 聖隷福祉事業団 浜松市リハビリテーション病院について

浜松市リハビリテーション病院は、患者中心の医療を目指し、心身ともに健康な職員によるウェルビーイング推進にも取り組んでいる。2008年に聖隷福祉事業団に運営委託され、44床から225床まで増床し、静岡県西部回復期医療の中核病院に発展している。地域連携拠点として、浜松方式と呼ばれる充実した救急医療体制と連携し、回復期のリハビリテーションを中心に地域医療の中心を担っている。

導入のキッカケ・課題について

■地域に求められる運転支援提供で、年間250名が利用するまで拡大

同院では、6年前に1面型のドライビングシミュレーターを導入してたものの、視線や注意力の評価が難しく、3面のシミュレーターを探していたところ、HONDAのModel Sのモデルチェンジと発売の情報を得て現在の「ModelA」を導入した。浜松市エリアは、公共交通が脆弱であり、車社会が主流である。工場は市街地から離れており、特に通勤の部分で課題がある。そのようなエリア特性の影響もあり、ドライビングシミュレーターを導入することで、評価の精度向上を図り現在に至っている。最近では、高齢者が脳卒中や軽度の認知症を患うケースが増加しており、同院のような施設でなければ運転可否を判断ができない状況である。結果として当初は若年層向けであったが、高齢者ドライバーの問題も顕著であり、高齢者の利用が増加している。

現在は、脳血管疾患の患者を中心に対応しているが、高齢ドライバーのニーズも増えており、3面のシミュレーターを用いて適正評価や行動の癖、アドバイスを行っている。あと何年運転できるかという形で評価を行っている。現場の取り組みを地域に明文化し、年間250名が利用するまでに増加し、1人あたり2～3回利用を踏まえると、年間約750回以上の稼働を誇っている。

運転シミュレーターの活用

■「ModelA」×フィードバックの両面で運転支援フォローアップを強化

同院ではドライビングシミュレーターを作業療法室に設置している。リハビリテーション利用者に目につく場所に設置することで、運転支援の認知を踏まえたメッセージ性の意図もあるという。運転支援の際に利用しているコース設定は、基本的には参考文献や研究内容を踏まえて設定している。

具体的には、まず慣らし運転を兼ねた山岳コースを走行してもらう。これは患者の運転技術が、慣れていない影響なのか、認知症などの疾患による影響なのかを判断する意味合いも含めている。その後、街中で危険予測の練習を行い、視野に問題がある人には視野課題を導入している。

従来のドライビングシミュレーターではA判定やB判定のような結果表示であったが、現在の「ModelA」では、点数及び定性的な判定結果になるため、療法士のフィードバックが重要になる。同院では、患者の特性を踏まえて事前に課題や不安点の仮説を持った上で、乗車結果と突き合わせて具体的なアドバイスを通じたフィードバックを伝えるようにしている。そのため、ハード面の機能だけでなく、療法士の適切な対応の両面で患者に向き合いフォローすることが運転支援には求められる。

【評価結果の例】

同院ではさらに、実車した際のドライブレコーダーのデータを参照し、机上検査、ドライビングシミュレーター、実車データの内容を踏まえて、確度の高い運転支援の提供につなげている。

従来の1画面でのドライビングシミュレーターの場合は評価のみであったが、ModelAになってからは、左右や後方の見落とし・状況判断の傾向も確認することができるようになっている。患者に対して自身の運転課題に気づきを与え、「こういう場面は、後方に注意しましょう」といった形で運転技術向上に向けたフォローアップの強化にもつながっている。そのため、評価だけではなく訓練としての利活用できるという手応えを院内でも感じているという。

一方で、酔いやすさやハンドルが軽く、リアリティに欠けるなどの声もあるため継続的な改善も必要となる。同院がこれまで培ってきた運転支援技術の向上により、患者数も増え、運転再開率は約70%にまで昇り、リハビリテーションを通じて地域社会への貢献にもつなげている。

運転シミュレーターの展望

■運転支援のハブとなり、地域に欠かせない存在へ

同院は今後も運転支援の領域拡大を見据え、積極的に活動をしていく方針だ。その1つがケアマネジャーとの連携である。同院には通所リハビリが併設されており、介護保険に関わるようになってから、地域のケアマネジャーが運転再開支援に関して困っていることが分かってきた。そのため、ケアマネジャーを招いて年に2回ほど研修会を開催し、同院の取り組みを紹介している。さらに、かかりつけ医との連携の必要性も感じているという。これから高齢者も増えていく中で、身近な医療関係者に運転支援に関する相談も増えると想定しており、同院を中心に外部と連携を強化することで、より多くの患者や運転再開を検討している利用者へサービスの提供が可能になる。

また別の観点では、運転再開不可と評価された利用者に、シニアカーや四輪自転車といった車以外の移動手段の提供も見据えている。生活で欠かせない車の運転に限らず、地域社会で生活するための移動手段を医療の側面から提案し、地域社会の課題解決を見据えている。

このように同院は、運転支援を提供するリハビリテーション病院として、地域に欠かせない存在として運転支援を牽引する存在になっている。

ケアマネジャーを対象に自動車運転支援体験会を開催（写真はその当時の様子）

HondaドライビングシミュレーターDB型ModelA

【お問い合わせ】
本掲載記事へのお問合せは以下でお願いします。

株式会社マネージビジネス
03-6429-9977（シミュレータ専用ダイヤル）
シミュレータ製品担当営業宛